



介護現場はコロナ前には戻れない

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（101）】マスクは必須だが、話ずらい 距離とる「傾聴」は唯一の憩い

公開日：2020/06/01 (ソサエティ)

里村 佳子 (社会福祉法人呉ハレルヤ会呉
ベタニアホーム理事長)

緊急事態宣言が解除されても、以前のような福祉介護施設には戻れそうにありません。新型コロナウイルスは、いやおうなしにニューノーマルへの移行を迫っているのです。



cc0

たとえばマスクですが、今ではマスクなしの介護は考えられなくなりました。マスクが必須となると、コミュニケーションの方法が変わります。

マスクは目から下を覆うので、これまで以上にアイコンタクトが大きな役割を担うことになります。目が口ほどにものを言うのです。

また、マスクをすると声がこもり高齢者には伝わりにくくなるので、ジェスチャーなどの非言語を用いて、言語のコミュニケーションを補完する必要があります。

ところがマスクをしていても、利用者に顔を近づけたり、大声で話したりすることはタブーです。でも、認知症や難聴の人は近くで話さなければ、伝わらない人も多くいます。

なので、スタッフが不要不急の会話を避けるようになっても不思議はありません。

しかし、コミュニケーションが減ると、認知症状は進み不安も増加します。人はコミュニケーションを通して人を理解し繋がっているのです。

このような時だからこそ効果的なのは傾聴です。スタッフが話すのではなく、ソーシャルディスタンスを保って、時間を決めて利用者の話を聴くのです。

利用者に感情を自由に表出してもらい、それに共感すると不安は緩和されます。共感されると、物理的距離が離れていても心理的距離は縮まるのです。

さらに、食事や入浴についても、密にならないよう介助方法を見直さなくてはなりません。

食事や入浴時は利用者がマスクを外すので、感染リスクが上がります。だから、食事介助は正面からではなく、利用者の斜め後ろから顔を近づけないよう気を付けて行うことにしました。

入浴も利用者にとっては楽しみの一つですが、工夫が必要です。

本来であれば、利用者のペースに合わせ、身体の状態を観察しながら入浴介助するのが理想ですが、感染を考えると手早く行って接触時間を短縮することの方が優先です。

いずれにしても、利用者との会話は控え、距離を取って、時間をかけずに介護することが求められているのです。

それは、これまで大切にしてきた利用者に寄り添う介護とは真逆です。

そこで、フェイスシールドやゴーグルの出番なのですが、マスクやフェイスシールドあるいはゴーグルをして入浴介助をすると、熱気で息苦しくなってスタッフが体調を崩す恐れがあります。

通常でも入浴介助は体力を消耗するのに、これから夏に向けて熱中症や脱水も心配です。

今後マスクやフェイスシールドはもっと改善されると思いますが、他に何か良い打開策はないものかと悩んでいたところ、ウルトラファインバブル（極小の気泡

で毛穴の中まで洗浄し、保温や保湿効果があると言われている）のシャワーがあることを知りました。

このシャワーを利用すると、従前より洗身時間を短縮できそうです。保湿効果もあるそうなので、肌が乾燥している高齢者には適しています。

入浴の時短は、スタッフの身体的負担の軽減と密になる時間の短縮で、一石二鳥です。

まずは、自宅のシャワーヘッドをウルトラファインバブルのシャワーヘッドに取り換えて効果のほどを試す予定です。

ですが、一石二鳥だと言って浮かれているわけにはいきません。

入浴介助の時間が減るということは、利用者と接触する時間も少なくなるということですが。

人は触ったり、触られたりしたいという本能的欲求があります。触ったり、触られることで癒されたり、人間関係を深めたりするのです。

感染面から考えると手袋を着用して行う方法がありますが、そのような欲求は、手袋を使用したところで、とうてい満たせるものではありません。

だからといって、これといった解決方法は見当たらず模索中です。

私たちは目まぐるしく変わる情報の渦に巻き込まれ、感染リスクばかりに目が行きがちです。その結果、大切なことを置き去りにしてしまうのではないかと、自戒しています。

ハードを変えることができて、人間のソフトは変わっていないのですから。

[続報リクエスト](#)[マイリストに追加](#)

以下の記事がお勧めです

> [里村 佳子のバックナンバー](#)

- > [事件の元地区検事は、民主党副大統領候補](#)
- > [香港国家安全法の中身が決まる6月末まで米中で駆け引き](#)
- > [医療戒厳令の時代がやって来た](#)
- > [黒川事件 賭け麻雀辞任で「本質」に幕引きでいいのか](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム理事長）

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設運営。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。2019年ニュースソクラのコラムを加筆・修正して「尊厳ある介護」を岩波書店より出版。

[この記事編集](#)

ソクラとは	FAQ
編集長プロフィール	利用規約
利用案内	プライバシーポリシー
著作権について	特定商取引法に基づく表示
メーカーソクラ	お問い合わせ
お知らせ一覧	コラムニストプロフィール

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved